

はじめに

滋賀県平和祈念館は、平成24年(2012年)3月、「語りつぐ 平和へのねがい」を指針として開館し、その後順調に活動をひろげ、以来8年を経過しました。この間の本館の活動については、『滋賀県平和祈念館 年報』第1号を平成25年(2013年)12月に刊行し、その後は各年度の活動について、それぞれ『年報』にまとめ、報告してきたところです。

本号では令和元年度の活動報告をまとめていますが、この年度においては周知のように、相次ぐ台風の襲来や新型ウィルス性肺炎の流行により、しばしば催しの中止や臨時休館の措置をとらざるをえず、県民の皆さまにはたびかさなるご心配とご期待にそえなかったこと、この場をかりておわび申し上げます。

さて、当館の運営にあたっては「モノと記憶の継承」、「自らできることのきっかけづくり」、「県民参加型の運営」という三つの基本方針のもとで、県民のさまざまな戦争体験を語りつぐ事業として、資料収集保存をはじめ、展示、普及啓発、平和学習支援、ボランティア活動支援などの諸事業を展開しています。

まず令和元年度の展示事業としては、第23回企画展『沖縄戦1945年』、第24回『「写真週報」に見る戦時下の女性』、第25回『守山空襲』を開催しました。

第23回展では滋賀県出身兵士が沖縄戦でたどった経過を紹介し、関連して福島栄寿大谷大学教授、上杉和央京都府大准教授による、沖縄における慰霊碑の意味やその伝承をめぐる講演会を開催し、多くの方々から高い関心を寄せられましたが、8月15日の戦没者追悼と関連の催しは台風のため中止となりました。

第24回展では、戦争と女性というテーマに関連して、生田美智子大阪大学名誉教授による講演会『女たちのシベリア抑留』を開催しました。つづいて令和2年(2020年)1月から第25回展を開幕しましたが、先述のように3月以降は臨時休館となりました。

令和元年度の普及啓発事業では、すっかり本館の行事として定着した『戦争体験を聞く会』も2度にわたって中止せざるをえなくなり、『映画上映会』も2月以降は中止となりました。しかし開館以来実施しております、戦争体験聞き取り調査や資料の収集などは例年どおりすすめており、戦争体験者の映像記録化の事業も着実にすすめ、常時公開できる体制をととのえています。

一方、子供向けの事業として『へいわの学校あかり』の通年開催、そして平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクールも実施してきました。

また本館ではボランティア活動もさかんで、現在の登録メンバーは53名で、9つのグループ活動があり、本館のさまざまな事業で協働がすすんでいます。しかし3月に予定していた、この一年の総括を県民の皆さまとともに検証する周年行事も、残念ながら臨時休館とともに中止せざるをえなくなりました。新年度を迎え再開のあかつきには、職員一同、これまで以上に皆さまに愛される祈念館運営を心がける所存です。

どうかこれからも祈念館にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

令和2年(2020年)4月

滋賀県平和祈念館館長 端 信行

目 次

はじめに	1
I 事業概要	
1 展示事業	
(1) 基本展示の改定.....	3
(2) 企画展示.....	5
(3) 企画展示関連事業.....	17
(4) 特別企画展示.....	18
(5) 地域交流展示.....	19
(6) 収蔵展示.....	21
(7) その他の展示.....	22
2 資料収集保存事業	
(1) 戦争体験聞き取り調査.....	23
(2) 収蔵資料の整理・保存.....	24
3 普及啓発事業	
(1) 平和学習講座.....	25
(2) 大人のための歴史教室.....	25
(3) 戦争体験を聞く会.....	26
(4) 戦争遺跡見学フィールドワーク.....	27
(5) 平和を祈念する日事業.....	27
(6) 開館8周年記念事業.....	28
(7) 館長講座「平和塾・つなぎ人（びと）」.....	28
(8) 映画上映会.....	28
(9) 平和の学校あかり.....	29
(10) 平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール.....	33
4 平和学習支援事業	
(1) 来館学習の支援.....	35
(2) へいわの子事業.....	35
(3) 出前授業.....	36
(4) 地域への出前講座.....	36
(5) 資料貸出.....	37
(6) 戦争体験者証言映像の制作.....	38
5 ボランティア活動支援事業.....	39
II 資料	
1 利用状況.....	42
2 広報活動.....	46
3 組織.....	49
4 決算.....	50
5 施設概要.....	51
6 利用案内.....	52
7 関係規程.....	53

I 事業概要

1 展示事業

(1) 基本展示の改定

当館では、常設展示として身近な地域での戦争とのかかわりを知るための〔基本展示〕、収集資料や体験証言をもとに県民の戦争体験を様々な視点から紹介する〔企画展示〕、収集資料をテーマごとに展示する〔収蔵展示〕、正面エントランスでの〔特別企画展示〕、地域交流室での〔地域交流展示〕などを開催してきた。これまでの基本展示では、スペースなどの制約もあって戦争全般を紹介するコーナーが小さく、地域と戦争のかかわりの紹介が不十分であった。そのため、滋賀県平和祈念館では平成 29 年度に策定した滋賀県平和祈念館第 2 期計画に基づいて、平成 31 年度に基本展示の増補・改定を実施した。新規基本展示は令和 2 年(2020 年)4 月 1 日より公開している。

新規基本展示の概要

1) 「地域展示」

「地域展示」では、相互に関連する 3 つの展示（壁展示・柱展示・床面（滋賀県航空写真）展示）によって、当時の滋賀県内の状況を俯瞰できるものとした。

壁展示では当時の風景・人々の暮らしを写した写真を背景にして、県内 19 市町ごとに当時の人口や 15 年間の戦没者数、軍事施設、主な軍需工場、空襲被害、集団学童疎開受入れのデータを紹介した。

柱展示では、軍事施設や主な軍需工場、空襲被害、集団学童疎開のテーマに分け、壁展示で紹介した内容を詳しい説明や当時の出来事で紹介している。

床面（滋賀県航空写真）展示では、柱展示で紹介した施設の場所をテーマごとに色分けした番号シールで示し、身近な地域にも戦争に関係する多くの施設があったことを知るきっかけとなる展示とした。



「地域展示」 壁展示と床面展示



「地域展示」柱展示

2) 「滋賀県と戦争」

収蔵資料と滋賀県民の戦争体験談を中心に据えて、戦争全般を紹介する「滋賀県と戦争」を約 2 倍のスペースに拡充した。コーナーでは、戦争と戦地での戦争体験をテーマとし

た【15年にわたる戦争】と、戦争中の滋賀県民の暮らしをテーマとした【戦時下の滋賀県】の2部構成とした。

【15年にわたる戦争】

「徴兵検査・出征」、「滋賀県出身者たちの戦場」、「戦場からの手紙」、「戦死 無言の帰郷」といった小テーマに分けて、関係資料や体験者の証言を紹介した。

【戦時下の滋賀県】

戦争によって滋賀県で起こった様々な出来事や県民が強いられた事象を、「金属供出」、「学徒動員・女子勤労挺身隊」、「銃後の生活」、「戦時下の婦人会活動」、「空襲」、「戦時下の学校と子どもたち」、「集団学童疎開」、「終戦 戦後」、「ふるさとへ 復員と引き揚げ」といった小テーマを設け、体験証言や関係資料を紹介した。

最後に、現代の子どもたちの平和への願いを発信する「世界に届けよう！！子どもたちの願い。ピースメッセージ絵画」として、当館で毎年実施している「平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール」の受賞作品を世界地図ボードで紹介した。



出征のぼり



滋賀県出身者の戦場



戦時下の滋賀県



滋賀県への空襲



戦時下の学校と子どもたち



子どもたちの平和への願い

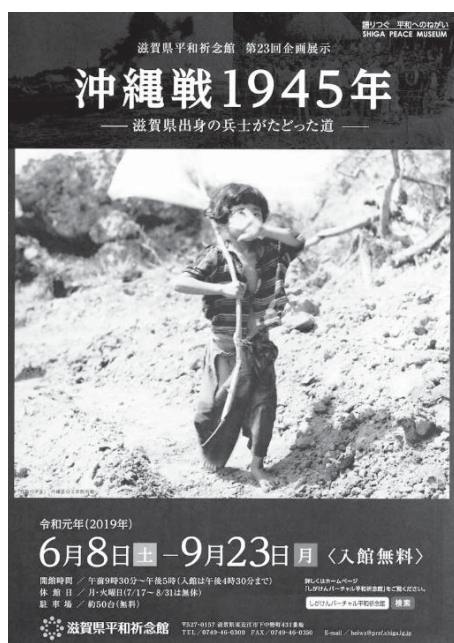
(2) 企画展示

第23回企画展示 『沖縄戦1945年—滋賀県出身の兵士がたどった道—』

会期 令和元年(2019年)6月8日(土)～9月23日(月)

会場 当館企画展示スペース

趣旨 昭和20年(1945年)3月の沖縄県への米軍上陸に始まった地上戦は、激烈をきわめた戦闘であった。20万人を超える沖縄戦戦没者のうち日本軍関係者の犠牲者は約9万4千人(うち約2万8千人が沖縄県出身者)、沖縄県住民の犠牲者も約9万4千人、米軍側が約1万2千人にのぼった。激しい戦闘の前半戦において最前線に立ったのが、京都で編成された第62師団(『石部隊』)であり、部隊には京都府・福井県・三重県とともに多くの滋賀県出身者が含まれていた。企画展示では、郷土部隊のゆくえとともに、戦場となった当時と現在の沖縄県の様子を紹介した。



第23回企画展示チラシ



展示の様子

概要

【プロローグ】

郷土部隊であった第62師団「石部隊」の沖縄への配置転換に伴って、多くの滋賀県出身兵士が沖縄戦に参加することとなった経緯と沖縄戦での日米両軍の戦力差を説明するとともに、戦争によって被害を受けた沖縄の人を沖縄戦を象徴するメインバナーの写真「白旗の少女」や沖縄戦に巻き込まれた住民の写真「戦時下の沖縄の人々」を対峙する形で配置した。